

KokonNiki MAP OMSAKI



人が地域をつくり、
地域が人を育む。
水と緑と人々が共生する島原。
今日は、このまちを巡ってみよう。

黄色の車体は「豊稔の実り」を、青い線は「有明海」を表す。

一時間に一本の島鉄が来るまでの、少し「贅沢な」待ち時間。



「オオミサキ」と呼びます。明治時代に合併した大野村・三之沢村・東空閑村の頭文字をとり「大三東」となりました。名付け親は、生松庵の城台日々来和尚といわれています。東は、後でも「サキ」と呼びましょう。

1 大野原遺跡展示館「縄文の里」(島原市有明総合文化会館内)

大野原遺跡は、縄文時代後期(約三千～四千年前)の土器作りの拠点でした。阿蘇火砕流(約九万年前)が堆積した粘土層を原料に土器を作り、有明海の沿岸地域と交易していたと考えられます。「縄文の里」では、土器作りの様子がジオラマなどで再現されていたり、土器の他にも狩りの道具である石鏃(石の矢じり)や、石匙(万能ナイフ)など生活道具となる多種多様な石器も展示しています。遥か三千年前の大野原遺跡の縄文人たちも、有明海を見ながら生活を営んでいたことでしょう。

【所在地】島原市有明町大三東戊 1382
【電話】0957-68-5800
【開館時間】9:00~17:00
【休館日】火曜日(祝日の場合は翌水曜日)、年末年始
大三東駅から徒歩 15 分



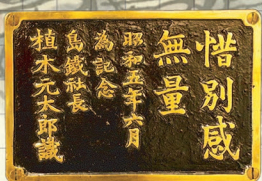
KokonNiki

先人たちに敬意と感謝を込めて、子供たちが誇りを持てる島原さがし。

2 「1号機関車」ラッピング列車

日本最古の機関車が島鉄でも走っていた歴史を、沿線住民や観光客に知ってもらおうと1号機関車ラッピング列車を走らせPRしています。

1872(明治5)年、新橋～横浜間に日本初の鉄道が開通。1号機関車の登場です。この機関車は、島原鉄道でも1911(明治44)年～1930(昭和5)年の19年間活躍しました。現在は国の重要文化財に指定され、さいたま市の鉄道博物館に展示保存されています。島原半島に近代化をもたらした鉄道。今日も島原に島鉄の力強く走る音が響いています。



送別式にて感謝の意を込め機関車左側に取り付けられたプレート。



島原鉄道で活躍していたころの1号機関車(写真提供:島原鉄道)



「島鉄1号機関車かすてら」
島原市に本店を置き、地元の方にも愛されている「文旦堂のはちみつカステラ」を1号機関車のオリジナル包装紙で包んでいます。1号機関車のポストカード付き。島原駅と諫早駅、しまつジョップ(Yahoo! ショッピング)で販売中!

3 本多木蠟工業所

本多木蠟工業所は、江戸時代から続く伝統技法で樺(はぜ)の実を絞り「化学薬品を使わない純粋な木蠟(もくろう)」を作っています。この木蠟を使い「島原ろうそく」は生産されます。一般的なろうそくと違うのは芯の構造にあり、風がなくても大きな炎がゆらぐのです。炎のゆらめきのリズムを眺めながら、やさしい灯りと共にあるお家時間を味わってください。

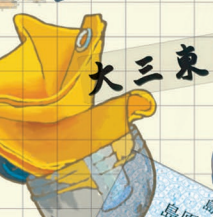
【所在地】島原市有明町大三東丙 545(駐車場有り) ※ろうそく作り体験、ろうそく絵付け体験できます。
【電話】0957-68-0015 大三東駅から徒歩約7分 詳細はwebをご覧ください。
【web】www.honda-mokurou.net

4 しあわせの駅ノート

駅を訪れた人が旅の思い出を書き残して、次の訪問者との交流を図れます。みんなの思い出が集う大切なノートです。

5 幸せの黄色いハンカチ

願い事や大切な人へのメッセージを書いて幸せ祈願。一定期間ホームに掲げたら、神社に奉納してお焚き上げしていただきます。 ※黄色いハンカチは駅のガチャガチャで購入できます。



つなぐ島鉄 つながる島原



UEDA COLUMN ウェダコラム

霊峰・雲仙岳の裾野で弧を描くように走り、山や海など沿線風景に富む島原鉄道。優しい海風に触れ、波音を聞きながら、少し贅沢な待ち時間に想いを寄せてみてください。
制作者・島原市地域おこし協力隊 上田 友

Instagram KokonNiki (ココンニキ) は、この辺りという方言。#kokonniki はコチラ▲

